

多摩デポ通信 第21号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2012年1月10日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三二・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

年頭にあたって

「図書館の復興支援 と共同保存」

理事長 座間直壯

今年の年明けはいつものそれとはかなり様子が違い、新たな始まりを望む、そんな想いが込められた挨拶が交わされているように思います。

私たち多摩デポは昨年是被災地の図書館支援ということで要請のあった、福島県矢吹町の図書館を訪ね、床に散乱した図書の間に入り込んだ蛍光灯のガラス破

片の除去作業をやらせていただきました。最初は現地に向いての作業を始めたのですが、作業は思いのほか困難であり、被災資料を東京に移して除去作業を行ないました。9月初旬から始め、ほぼ一ヶ月で延べ200人の方々が参加され、予定日程を一ヶ月以上短縮して終わることができました。その様子は朝日、読売の各新聞で紹介されました。この作業にはいろいろな方々に参加いただき、大きな輪となって広がっていき、様子が伺えました。

図書館を共通の話題として、公共のみならず、大学

第12回・多摩デポ講座（見学会）

—NPOの会員だけでなく、どなたでも参加できます—

国立国会図書館憲政資料室

1月28日（土） 午後2時～4時30分

集合は1時50分まで（時間厳守）

会場：国立国会図書館憲政資料室

地下鉄永田町または国会議事堂前下車

集合：国立国会図書館西口通用口 午後1時50分まで

※ 利用者入り口の正反対の位置にあり。

この時、通常の利用者入口（東口）は閉鎖しています。ご注意ください！

参加費：無 料

定員：12人先着順（事前申し込みのみ）

申し込みはメールかFAXで、多摩デポ事務所まで

図書館、学校図書館、国立国会図書館など、様々な種類の現役職員やOB、図書館学を学ぶ学生さんなど大勢の方々が応援に駆け付け、みんなが一つになってこの作業に取り組みました。また、作業を通じて多摩デポも知ってもらいました。このことは私たちの今後にとって大変意義のあることだったと思っています。

また、昨年は全国図書館大会が多摩地域で開催され、資料保存の分科会は「災害と資料保存」をテーマに行われました。多摩デポはこの分科会事務局を中心となって担当しました。東日本大震災で甚大な被害を受けた地域の図書館からの報告や今後の支援のあり方、災害時の図書館の役割、災害に対する備えなどについて議論が交わされました。今年も、これまで多摩デポが取り組んできた複本調

査や里親探しなどの経験や実績を活かし、被災図書館の資料収集支援を最優先課題として積極的に取り組み、震災で失われてしまった図書館資料を再構築するためのお手伝いをさせていたいただきたいと思っています。

また、多摩デポがこれまで提言してきた多摩地域の図書館における「資料の共同保存のあり方」について、改めて多摩デポの起ち上げの原点を再度確認していきたいと考えています。共同保存の在り方や、多摩地域最後の2冊保存と保存資料の選択範囲との関係、写真や映像などの視聴覚資料の保存はどうするのか、地域での埋もれた資料・情報の発掘活動についての協力・支援、「消えてしまっ」を保存する活動など、共同保存図書館としての使命と役割を具体的に検討していきたいと思えます。

今年のも摩地域公立図書館大会

2月7日立川市アイムホールにて

第一分科会「震災と図書館支援」

■基調講演：

日本図書館協会「HELP-TOSHOKAN」の活動

■事例報告：午後

府中・三鷹・立川市の図書館の取り組み

そして「多摩デポ」も発表します（参加無料）

多摩デポがこれまでの活動を通して蓄積してきたものをまとめ上げ、関係各方面に提起し、理解と協力を求め、特に多摩地域の都立図書館をはじめ各市町村立図書館との連携の度合いを一層強め、「共同保存」のモデルを多摩地域で構築し、

日本の図書館発展のために新たな挑戦を試みたいと考えます。皆様のご理解とご協力をいただき、本年も「多摩デポ」をよろしくお願い申し上げます。

●日本図書館協会東日本大震災対策委員会はHELP-TOSHOKAN第4期活動として、岩手県沿岸部の被災図書館をバスで巡るツアーを企画し、参加者募集中です。日程は1月21日〜23日の土日月。盛岡集合・解散で、詳細は日本図書館協会ホームページに出ています。

●矢吹町図書館支援には、多くの方が参加されました。支援したいが状況がわからない、自分ができる支援があるだろうか、と考えている方がたくさんいることを実感します。

●すぐアクションに繋がらなくても……、都合のつく方、ツアーに参加し現地を見、現地の図書館人の話を聞き、まず東北を知ってみませんか。

矢吹町図書館被災資料のガラス片除去の作業終了・懇親会、盛り上がりました！

延べ人員200人近く、実人員で80名の方が参加した矢吹町図書館被災資料のガラス片除去作業。作業の終了を祝い、12月11日、作業場所として借りていた矢崎邸作業室で打ち上げを行いました。

事前申し込みなし、出入り自由というユル〜イ会でしたが、参加者は22名にぎやかな会になりました。作業に加わった時間は様々で初対面という方も多かったのですが、「あの作業（ハケで払うしぐさ）」という共通点からすぐに話は盛り上がり、2時から始まって、最終的におひらきになったのがなんと夜の10時！

当日は矢吹町図書館か



らお土産のお酒をはじめ、矢崎さん心づくしのおでん、皆さんからの差し入れで、食べきれない御馳走、おつまみが並び、話題も尽きなく続きました。

このつながりを今後に活かしたいとの声も出ました。長く続くであろう被災地の図書館支援にかかわっていくためにも大切な経験だったと思います。

(事務局 田中)

お礼の

メッセージ

矢吹町図書館
菊池秀子

3月11日、14時46分。聞いたこともない携帯からの音。「何だろう？」そう思った瞬間、大きく揺れ始めた。地震だ！立っていられないほどの大きな揺れは、約5分にわたり続いた。何度もくる余震も恐かった。そして目の前に広がる現状に茫然と立ち尽くした。

資料は殆どが書架から飛び出し、奥にあった書架は将棋倒しとなり倒壊していた。そのはずみで蛍光管が落下し、多くの資料に破片が入った。幸いなことに、誰一人怪我をした人がいなかった事が救いである。

矢吹町の震度は6強。福島県の中でも矢吹を含む3市町は激震地であったと発表された。

倒壊した書架の搬出や急を要する場所の修繕、そして資料を棚へ戻す作業が幾日も続いた。ようやく片付けが終わり、蛍光灯の細かい破片が入った資料の除去作業が始まった。作業は、本の一ページずつをめくり刷毛でガラス片を落としていく。町内のボランティアの方々にもお手伝い頂いたが遅々として進まなかった。そんな中、被災地を回り現状を把握され、いち早く支援の手を差し伸べて頂き、東京、千葉、遠くは岡山から、泊りがけの作業に参加

頂いた皆様に心より感謝しております。狭い中での単純作業は、さぞお疲れになったことでしょう。

さらに今後の支援についても幾つか提案をされ、私達は東京へ運び除去作業後、戻して頂くという案をお願いさせて頂いた。段ボールで57箱、資料の数2001冊。少しでも早く矢吹へ戻したいという思いで作業をされ、予定より一ヶ月も早くご返却頂きありがとうございます。箱を開けるたびに、破損個所に対するメモ書きや中の袋を裏にしてから詰める事など、作業に携わる方々の工夫や、一冊一冊への温かい思いを随所に感じられ、感激しました。「被災地に行かなくても支援はできるんだ、ということが実証できた」と伺った時に、支援の仕方や方法は沢山あるという事を実感しました。

私達は、復旧から復興へと進むことが出来ました。

これには、皆さんの震災に対する思い、実践する行動力、人と人との繋がりが、色々なものが集まり大きな支援の力へと繋がっていったからこそと実感しております。それをしっかりと受け止め、いつか恩返しができるよう頑張っています。

最後に、この場をお借りし、お礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

全国図書館大会 資料保存分科会

第94回全国図書館大会多摩大会が10月13日から行われ、14日の第11分科会“資料保存”の企画・運営を多摩デポが行いました。

今年度は、3月11日に発生した東日本大震災により

多くの図書館が被害にあったことを受け、「災害と資料保存」をテーマに、府中市中央文化センターひばりホールに約80名の参加者を集めて行われました。

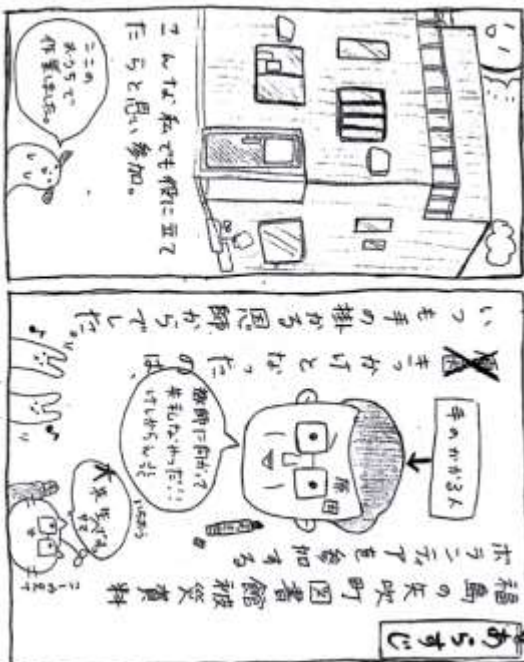
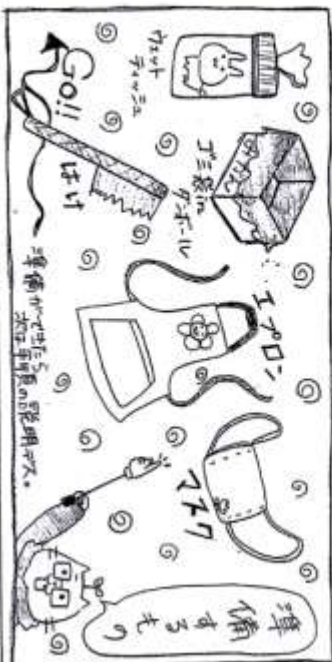
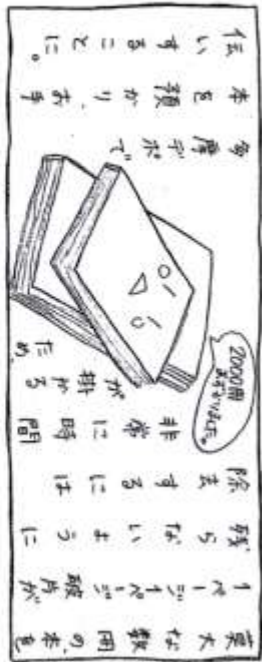
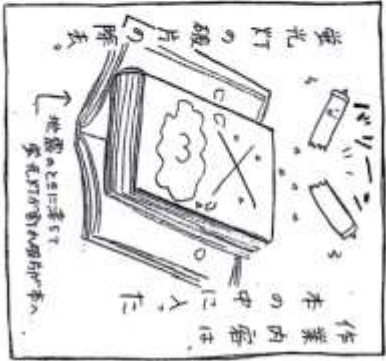
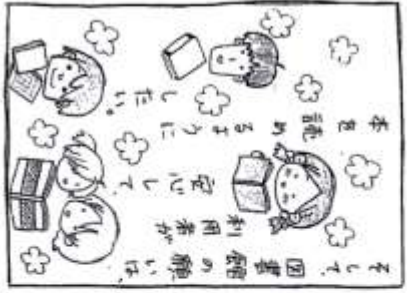
まず、熊谷慎一郎氏（宮城県図書館）が「被災地報告―宮城県図書館から―」と題して基調報告を行っています。続いて木部徹氏（東京文書救援隊事務局長）が「被災資料の復旧―東京文書救援隊の考え方と技術―」という報告を行い、被災地での甚大な被害の状況や被災資料の復旧作業の内容が具体的に話されました。午後からは、3月以来日本図書館協会施設委員会が被災地の図書館の被害状況を調査しており、その内容が梅澤幸平氏（滋賀県審議員）と川島宏氏（栗原研究室設計室長）の両施設委員から報告され、施設面から見た被災状況と地震への備

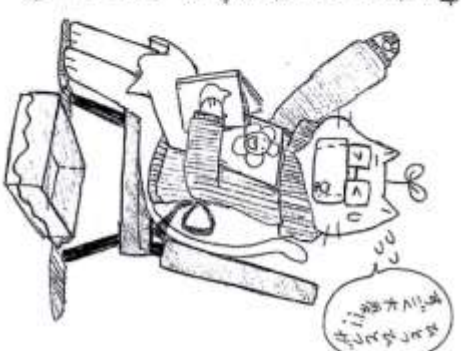
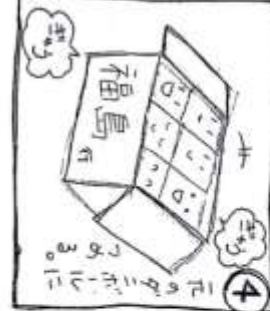
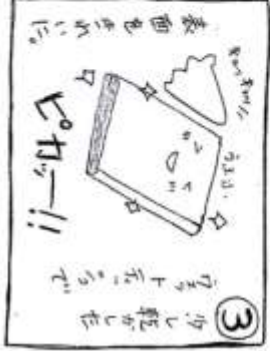
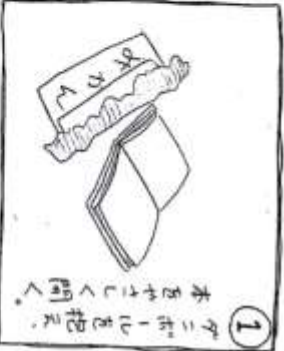
えについて語られました。

その後、多摩デポの齊藤誠一が「長期的視点に立ったコレクション復興支援と地域資料の保存体制―共同保存図書館・多摩からのアピール―」を行っています。

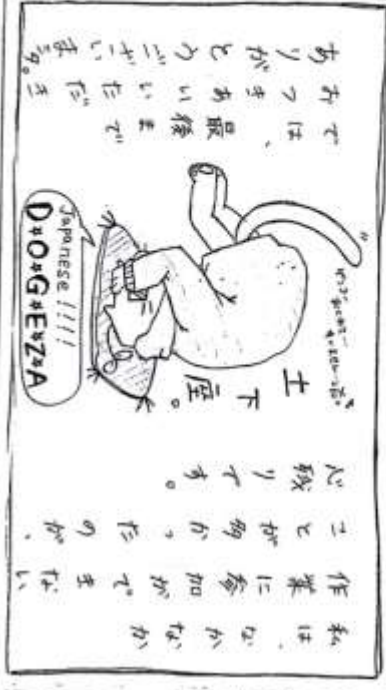
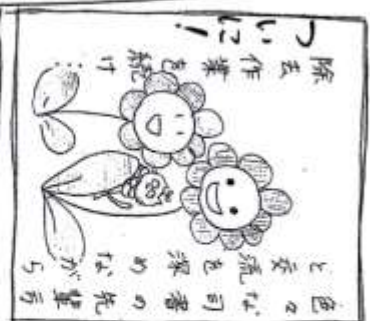
震災により過去から蓄積されてきた資料群が壊滅状態になっている図書館もあり、その復興には多くの図書館の協力が必要で、長期的な視点に立った支援体制が必要であること、また今後、地域資料を保存する場合にはリスク分散をきちつと考え、必ず残せる仕組みを作っておくことの必要性をアピールしました。

最後に、会場を移して東京文書救援隊による「文書救援隊システムの実演」が行われ、入手しやすい道具を使った被災資料の復旧方法について、残った参加者全員による実習が行われ、大変好評でした。





詩集は、すぐ除去が終わるので、全葉とか、厚い本の除去は、すごく時間が掛かり大変! たまに読んでいます。



作者：小川三恵(オカワ ミサ子)さん 星座：おとみ座
 出身：千葉県の上み(い)所属：千葉県立野田看護専門学校図書専攻
 好きなこと：イラスト作成・旅行・立ち読み・勉強

図書館総合展 ポスターセッション 今年も参加しました

第13回図書館総合展が11月9日～11日にパシフィコ横浜で開催されました。多摩デポが図書館総合展のポスターセッションに参加して今年で4年目。今年は東日本大震災関連の特別フォーラムが複数あり、展示会場の特別展示も災害がテーマでした。多摩デポも従来のポスターに加え、矢吹町支援活動のパネルを作成、展示しました。このパネルをきっかけに、目を留め足を止めて話を聞いてくださった方がたくさんいました。

総合展の展示会場はこのところ図書館システムや電子出版等のブースが主体。図書館家具や用品、出版関係などの展示はめ

つきり目立たなくなりました。一方でポスターセッションは大学関係がぐっと増え、市民団体は少数派です。こういった傾向を受けてか、来場者は大学、学校図書館関係者、学生が目立ち、公共図書館員はずつと少ないように見受けられました（公立図書館員は、業務多忙や出張が認められないなど出てこられない事情もあるようです）。

多摩デポコーナーに寄せられた声も多方面から。「前に借りた本を借りようとしたら、無くなっている困りました。卒論で使う本だったのです。」（大学生）
「大学図書館も書庫がいっぱい。わかります。」（大学図書館員）
「在庫は多種類置いていけるけれど、実際は無い本も多い。図書館にあるといいですよ。頑張ってください！」（J書店の方）。

そして「多摩デポブックレット」は46冊売れました。資料保存の基本を知りたいという学生さん、去年も買ったので新刊分を買いたいという常連さん、地図というテーマに興味を持ち第3号をご購入くださった一般の方など。皆さまありがとうございました。

資料の利用と保存の現状と多摩デポの活動について、多くの方に知っていただけるよう、これからも機会をとらえて訴えていきたいと思えます。（事務局 吉田）



【追記】

総合展での
もうひとつの
うれしいできごと

昨年の会場で資料の共同保存に興味を持って、その後横断検索ボランティアに参加してくださった学生さんが今年もお見えになり、就職が決まったとの報告。それも国立国会図書館に決まったというすばらしい結果です。「多摩地域の市町村の蔵書の状況が見えて、横断検索作業はとて面白い経験になった。またできることがあれば……」とも言ってくださいました。

ポスターセッションが
つないでくれたご縁です。
（事務局 田中）

都立多摩図書館移転

に関する動き

平成28年3月に国分寺市移転が決まっている都立多摩図書館。11月にはプロポーザルにより基本設計業者は都の立川合同庁舎と同じ佐藤総合設計に決定。移転後の図書館は建物も書庫も現在の倍以上になる(延べ床面積9千㎡、保存部門4千㎡)。増えた書庫面積をどう使うか、16ミリ等、視聴覚資料がどうなるかは不明。

■第14回チャリティ古本市■

(情報提供)

開催日:

3月24日(土) 10時~17時

3月25日(日) 10時~15時

場所:

小平市中央公民館ギャラリー

集本日:

古本を提供していただける方は

3月22日(木)~23日(金)の

10~16時に同所にお持ち下さい

(お問い合わせ) 小平図書館友の会

Tel.090-1707-0860

○宮沢章夫という劇作家、小説家がいいます。怪優竹中直人の多摩美大時代の同級生でかつて八王子市に下宿していました。その頃国分寺市内に下宿した竹中との交遊は竹中のエッセイなどに出てきます。昨年、本に入った「返却」と云う彼の小説は、31年前に借りて返しそびれ、心につかえながらずっと持っていた都立八王子図書館の蔵書「アメリカの鱒釣り」R. ブローテイガン著 を返そうと思

い立ち、この間の自分の生活と経過した時間を頭に浮かべながら乗り慣れなくなっていた京王線を下る道行き。都心から八王子へ行き、そこにあつたのは八王子市立図書館で、都立の本を返すのなら今は立川にあるらしい都立図書館に行った方がいい、戸われ巡っていく疑似実録小説。おもしろい。(昨年評判になった「ボブ・デイルン・グレート・ヒット第三集」新潮社刊に収録。)

○国分寺市では今年度、東京都の緊急雇用事業を活用して、閉架書庫所蔵資料の都立・区立・多摩地域市町村立図書館との重複所蔵調査をしているとのこと。市内光図書館の地下には約4万5千冊の保存資料があり、うちISBNが付いているのは約2万冊。ここは市内の一冊本だけが置かれている書庫だが、以前から置ききれなくなっており、時事的な出版物などを順次間引きつつ運用している。蔵書にICタグを貼付している途上にもあることから、この書庫蔵書の全量を点検し、貼付と保存の見通しを立てようというもの。

★会の現勢

2012年1月1日

現在

●会員

(個人会員104名)

(団体会員3団体)

●賛助会員

(個人43名)

(団体2団体)

今年度も第4四半期に入りました。会費納入がまだの方には、振込票を同封しましたので、入金よろしくお願ひします。

●年会費

正会員(個人・団体)

五千元

賛助会員一口 二千元

(個人一口団体五口以上)